

15 小児外科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

患者、家族、そして医療スタッフから信頼される小児外科医になることを、更には客観的な自己評価ができるようになることを目指す。このレジデントプログラムを終了することにより、小児外科医として小児外科疾患の診断、治療に責任を持ち得る知識、技量、人格を備えることを目的とする。

2. 研修内容と到達目標

・ 一般目標

小児外科学会専門医制度規則の目的に則り、小児の外科的疾患に対して基本的診療を行ううる知識と技量を修得する。

・ 行動目標と研修方略

	行動目標	研修方略
1年目	<p>① 小児外科疾患の基本的検査法の選択、実施ならびに結果の解釈ができる。</p> <p>② 小児外科における術前・術後管理の習熟と実施ならびに基本的外科治療が確実に実施できる。</p> <p>③ 学術集会において小児外科に関する発表を演者として行う。</p>	<p>① 基本的検査：X線検査（単純撮影、消化管造影、尿路造影）、穿刺検査（腹腔、胸腔、脊髓腔）、生検（リンパ節、体表組織、直腸）</p> <p>② 術前・術後管理：体液管理、呼吸管理、栄養管理、感染対策、悪性腫瘍に対する基本的治療</p> <p>③ 基本的外科的療法：動・静脈カテーテル挿入、中心静脈挿入、人工呼吸器操作、蘇生法、その他救急処置、外傷、熱傷の初期治療、肛門拡張、腸洗浄、外鼠径ヘルニア嵌頓整復術、腸重積非観血的整復術</p> <p>④ 手術的治療：外鼠径ヘルニア根治手術、虫垂切除術、痔瘻根治手術、表在膿瘍切開術、腹腔鏡下虫垂切除術、腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術</p>

2年目	<p>① 小児外科疾患の診断に必要な特殊検査の選択と結果の解釈ができる。</p> <p>② 小児外科疾患における手術的療法(中等度)を適切に実施し、その結果を評価できる。</p> <p>③ 学術集会において小児外科に関する発表を演者として行う。</p> <p>④ 小児外科研修中のジュニア医師や、臨床実習中の学生を日常的に指導し、その成果を評価することができる。</p>	<p>① 特殊検査：超音波検査、CT検査、RI検査、NMR検査、内視鏡検査、消化管内圧検査、食道pH検査、手術標本組織検査、心電図検査、直腸吸引生検</p> <p>② 手術的治療(中等度)：以下およびこれに準ずるもの 粘膜炎幽門筋切開術、胃瘻造設術、腸瘻造設術、腸瘻閉鎖術、体表腫瘍(良性)摘出術、腸重積症 観血的整復術、低位鎖肛根治手術、腸回転異常症手術、睾丸固定術、その他の腹腔鏡下手術</p>
3年目	<p>① 小児外科疾患における手術療法(高度)を適切に実施し、その結果を評価できる。</p> <p>② 小児外科に関する研究論文および症例報告論文を発表する。</p> <p>③ 小児外科疾患の患者とその関係者に病状と診断に関し十分説明を行うことができ、小児外科臨床において遭遇する問題点を解釈するための基本的方法を熟知している。</p>	<p>①手術的治療(高度)：以下およびこれに準ずるもの 先天的食道閉鎖症、肺縦隔、先天的横隔膜ヘルニア、食道裂孔ヘルニア、臍帯ヘルニア、新生児消化管穿孔、先天性腸閉塞症、Hirschsprung病、中間位・高位鎖肛、胆道閉鎖症、胆道拡張症、悪性腫瘍、その他の腹腔鏡下手術</p>